

人形に依る「おはなし」の演出に就て (講演大要)

菊池ふじの

第一、理論

- 一、演出に就て
- 二、舞臺に就て
- 三、脚本に就て

第二、實際

- 一、脚本化に就て
- 二、舞臺裝置に就て
- 三、人形に就て
 - 1 體裝
 - 2 遣ひ方

實演の前に何か申上げる様に、と云ふ事でございますので、一寸お話申上げる事になりました。こゝに書き出して

ございます項目は、大變に立派なものでございまして、之等に就て充分申上げられる様でございますと大變いゝのでございますが、お恥しい事に未だ何も勉強が出来て居りませんので、こんな事を書き出す事に、随分躊躇いたしました。でも他に適當な言葉もございませんので、便宜上、こんな事に分けて、考へて見たいと存じます。

「人形に依るおはなしの演出」と云ふ題になつて居ります様でございますが、之は私共が普通申して居ります人形芝居の事でございます。人形芝居は、皆様既に御存じでゐらつしやいます様に、一昨日、新庄先生が談話の分類をなさいました折、一番初めにお書きになりましたあの童話の立體化でございます。人形芝居の教育的効果と云ふ事は、此の頃大變に社會から認められてまゐりまして、先達中は陸

軍省が人形芝居に力を入れて、幼児時代から愛國的精神を吹き込む様に力を入れる、と云ふ様な記事が新聞に見えて居りましたし、その前後にもちよい／＼人形芝居の事が出て居りまして、段々社會にその眞價が認められ様と致して居ります事は慶びに堪えない次第でございます。

お話を立體表現化して子供に見せます場合、人形を使つて致します場合と、私共人間が夫々人物になつてして見せる場合と二つございます。いま後者のつまり人間に依るオハナシの演出と云ふ事に就て、暫く考へて見様と思ひます。

私共は「赤頭巾」のお話であるとか、「都會のねずみと田舎のねずみ」であるとか、その他二三のお話を私共で實演して子供等に見せた事がございました。今之等を、私共へツポコではあまりに問題が離れ過ぎますので、假に一代の名優が演出すると致します。名優の眞實な演出は、私共大人が観客でございますなら、その到れり盡せりの藝に實に見惚れてしまふ所でございますが、あのがんぜない子供にとつてはどうでございますか？ 子供等は藝に見入るのではなくて、その立體表現によつて、彼等自身の想

像といふ内的活動を強くし深くすると云ふ、私共大人とは違つた立場で以つて劇に對して居るのでございます。ですから演出が屆き過ぎたり、又道具や背景のものが完全であつたり致しましては、却つて世界が限局されて想像の餘地が無くなり、想像と云ふその心的活動の潑刺さを弱める事になると思ひます。まあ理想を申せば、名優が子供の心理と云ふものをよく理解し、その理解にもとづいて程よき演出をすると云ふ事が、何よりもまさつて一番いゝ事だと思ひます。併し子供の心理をよく理解すると云ふ事もなかなか困難でございますが、主觀あり、表情もある人間がその理解にもとづいて程よき演出をすると云ふ事は、尙ほ一層の困難であらうと思ひます。こんな根本的の困難の他に、實際問題として、現在、子供本位の劇をやつて見様と云ふ名優も有りさうにも思へませんし、假にあつたところで、全國の幼稚園の子供が始終見せて貰ふわけにまゐりませす、それかと云つて私共素人が、あまり一生懸命な演出もいけないとか、屆き過ぎた演出もいけないとか、子供の想像作用の事なんかを慮つて控へ目な演出等をしたら、それは實際

目もあてられないだらうと思ひます。かう申しましたからとて人間の演出を決して拒むのではございませんが、併し人間が演出すると致しますと、人形の場合の様に、一時に獨りで二人も三人もの人形を出して二役も三役も兼ねると云ふわけにはまゐりませず、脚本にもよりますが相當の人数が要りますし、場所も廣く要しますし、それにつれて、道具も背景も大げさになり人形芝居の様に、いつでもして見せたい時に、おいそれと簡單に出來ると云ふ場合には行かないだらうと思ひます。

で現在の所では、人間の演出と云ふ事よりも寧ろ、極つた表情もない不完全な人形の、極くおほまかな演出に依る方が却つて子供の想像作用に對しても効果があり、手近で簡單に實行し得る事ではないかと思ひます。之等の事共が私共が人形芝居を主張いたします最大の理由でございます。

先程も申上げました様に、人形芝居といふものは、おはなしの立體化でございます。子供はおはなしをきいただけでも、盛んに想像を働かせて楽しんで居るのでございますが、それが人形といふ具體のものゝ助けに依りまして、ど

んなにか樂たのみに、又どんなにか盛んにその想像作用が働くわけでございますが、あまりに到れり盡せりの藝は勿論、人形、服装、舞臺裝置等もあまり完全なものとは却つて子供の想像の働く餘地をなからしめて、心的活動の潑刺さを弱めると思ひます。かう考へました時に、幼兒本位の人形芝居には脚本にも舞臺裝置にも人形にも完全さの程度に、或る限度があると思ひますし、又その演出に當りまして、程よきまづさと云ふものが必要である事を切に思ひます次第でございます。

舞臺に就て

次に舞臺に就てお話申し上げます。

舞臺と幕とは、間仕切の二つの要素であると思ひます。

舞臺は空間を仕切つて思ふまゝの「世界」を現はし、幕は時間を仕切つて思ふまゝの「時」を現はし得るのでございます。例へば、後程ご覧いただきます「爆彈三勇士」に於きまして、只今、上海の廣野を現して上海事變の一場面を見せたかと思ひますと、今度は舞臺變つて空想の世界の

龍宮城の場面であるとか、幕が代れば海底の有様であるとかを表はし、こんな小さな舞臺ではございますが面白いものだと思います。

空間を仕切ると云ふ考方から申しますと、舞臺の色はなるべく外界と違つた色がよろしいと思ひます。と申しましても、舞臺の中に見入る心を邪魔致します様にちらつく色とか、又は幕との色の釣合ひ等もございます故、あまり避けくしい色は避けた方がよいと思ひます。又外界から、その場だけを區切ると云ふ意味合ひのものでございませから、お手製で舞臺等をお造りになります場合は舞臺の枠に或る幅と云ふものを考へなければならぬと思ひます。それから幕でございますが、幕は時間を區切ると云ふ働きを致しますが、この他に、一場面があまりだら／＼と長過ぎたりいたしますと見て居る方で飽き／＼して観客がだれてまゐりますので、そこをグット締めるために幕を降す場合もございます。又出し物によりましては事件の進展につれて、次の幕が喜劇であるか悲劇であるか豫想されるわけでございますが、こんな場合、幕の色合も、それに應

じて喜劇の時には喜劇らしく、悲劇の時はそれらしい色の幕を下げて、次の場面の豫想をグット助けてやると云ふ様な働きもございます。あの歌舞伎傳統の三色即ち緑、茶、黒を三筋に置いた幕は悲劇にも喜劇にも又、普通の場面にもいゝ様にとの事で三色になつて居ると云ふ事を聞きました。黒は悲しみ、緑は華やかさを、茶は、そのどちらでもないあたりまへの時にいゝのださうでございます。

で、人形芝居の場合も幕はどんな場面にも邪魔にならぬ地味な色（大人の好みよりは少し派手なもの）にした方が無難であると思ひます。

脚本に就て

次に脚本に就て申し上げます。

どういふ脚本が、幼兒の爲の人形芝居の脚本としていゝ脚本であるかと申しますと、優秀な童話の備ふべき條件を備へ、尙ほ且つお話よりも一層の活動性を備へて居るものがよろしいと思ひます。静かなお話は、人形芝居として見るよりは、たゞお話として味はつて居る方が却つてよろし

いのがございます。ですから人形芝居の脚本を考へます時は、活動性に富んだ童話を考へる方がよろしいと思ひます。この折角の活動性を表はすために、人形は是非とも動く様に致し度いと思ひます。動く様にと申しましても、紙芝居の様に、體ごと移ると云ふのでなくて、最小限度體が動き、手が動く様に致したいのでございます。兩手が自由に動けば、體の動きはかなり充分表はせると思ひます。世間ではよく紙芝居と、人形芝居とを同じものと心得てる人が多うございます。子供達もよく、舞臺を持ち出しますと、紙芝居！ 紙芝居！ とふれ歩いて居りますが、こんな時私共は、「紙芝居じやないの、人形芝居よ」と訂正いたす事もちよいとございます。皆様も御存じの様に、紙芝居は、假に内容を教育的な良いものと假定いたしましたところで、繪ばなしの一寸動くと言つた様のものでございまして、説明的な意義は持つて居りませうが、少しも藝術的ではないと思ひます。之に反して人形芝居は、動的であり藝術的であると思ひます。

脚本化に就て

次にどういふ風にして脚本化するか、と云ふ事に就て申上げて見度いと思ひます。

脚本化と云ふ様な言葉を持ち出しますと、人形芝居の脚本は、童話からの脚本が本體でもあるかの様に思はれますが、決してさうではございません。文學としても小説とは獨立に劇があります様に、人形芝居に於きましても人形芝居の脚本として獨立にあつていゝものだと思ひます。併し只今の所、始めつから人形芝居の爲に作られた脚本と云ふものは大變に少うございますし、之からの新作を待つて居りましても、なか／＼今日の間合ひませぬので、先づ良しとされてゐる童話、又は子供によく親しまれて居る童話を脚本化する事が最も手近な事であらうと思ひまして、今まで多少致してまゐりました。

扱て、今までどういふ風にして童話を脚本化して來たかという／＼考へて見たのでございますが、之と云ふハツキリした方法も思ひ當りませぬ。たゞ私は、おはなしを子供

にして聞かせます時に、いつもその童話の持つ光景を目に浮べて、その光景に就て話すと云つた方法を取つて居りますが、童話を脚本に直します時にも、やつぱりその童話の色々の場面をそれからそれと目に浮べて考へます。先づその童話のクライマックス、即ち山と云ふものを考へ、その場面を目に浮べて人形芝居になるかどうかを考へます。こゝがお芝居になる様でしたら、もうその童話は脚本化して演出出来ると言へると思ひます。こゝが若し、魔法的な力の發現であるとか、神の業が現れると云ふ様な場合は演出し憎い事がございます。併し、猿蟹合戦の人形芝居で、柿の芽が伸びますところを、大きい木と、小さい芽とを手早に取りかへて表しましたが、さ程子供等は變だとも思はない様子を思ひますと、かなりの不自然な方法でもつて演出致しましたも、子供の良く知つて居るお話でございますなら子供はそうは思つてはくれない様に思はれます。そう思ひますと、大抵のお話は演出出来るものかも知れませんが、山を考へましたら、その次に、序幕なり、終結なりを考へます。序幕は、クライマックスの原因となります部分で、七

匹の小山羊の様に一幕で済む事もございませうし、三幕四幕にもなる時もございませう。短くならうと、長くならうとそれはお話に依るのでございます。でも子供のよく知つてゐるお話で、序幕が三場面も四場面もございませう時は、そのどの場面を省いてもクライマックスが分らなくなる様でしたら省く事は出来ませんが、そうでもない時は、そのどれかを省くなり、又は人物の口上にして云はせたりしてあんまり幾幕にもならない様にした方がいゝと思ひます。序幕であつても、あんまり幕數が多いと全體をだれさせる事がございますので。

それから終結は一般に短い方がよいとされて居ります。山の直ぐあと、適當の切りを見つけておしまひにいたします。終結の長いのは蛇足で、折角の劇をだいなしにしてしまひます。こんな經驗がございませう。猿蟹合戦の芝居の時に、一番おしまひの幕でございませうが、お猿さんが歸つて来て栗や蜂や白につぶされますと、見て居た子供達は氣味よがつて、一時にドツトかん聲を揚げてくれましたので、おくれげせながらこゝで幕を引いた事がございました。脚

本には、お猿が潰された後、小蟹がみんなに向つて一言御禮等を申述べる所を入れて置いたのでございましたが、實際にいたして見ましたら、このおしまひには、簡単な挨拶さへも無用だったのでございました。今度、ご覧いただきませう爆彈三勇士を脚本に致します動機や、経過について申上げて御参考になれば嬉しいと存じます。

爆彈三勇士は今でも尙ほ、子供は大變に興味を持つて居りまして、繪を描きます時も、切紙をいたします時も、始終爆彈三勇士をいたします。自由遊びの時等は長い積木を破壊筒にし、お砂場の箆を鐵兜だなんてがぶつて、よく飛び込むまねを致して居ります。三勇士の爲した行ひがよく理解されての人氣、と云ふよりも、家庭内の人々の、話の裡から感じられる感歎の雰圍氣と云つた様なものが、子供の心にも深く映じて、かくもこのお話に興味を持つのであらうと思ひますが、とにかく、人氣があるとは思つて居りましたが、戦争の事でもあり、どういふ風に取り扱つていゝか分りませんでしたので、そつとして置きました所或る日倉橋先生から、敵愾心を刺戟しない様に氣をつけ

て、爆彈三勇士を人形芝居に見せてはどうか、と仰言つて頂きましたので、早速、いろ／＼の暗示をいたゞいて脚本にとりかゝつたのでございました。三勇士の事實を讀みました處、自づと三幕の見當がついたのでございます。

三勇士が鐵條網へ飛び込むところが山でございますが、序幕無しにこゝだけ、ひよつくり演出したのでは何だかはつきりも致しませんし、脚本の形としても物足りないと思ひまして、三勇士が選ばれるまでのいきさつを入れて序幕といたしました。この脚本では、三勇士が飛び込んで爆破するところや、爆破に續く進軍の光景等は、舞臺面でなく、蔭で扱ひましたので、その爆破の跡をよく見直して、感銘を深くしたいと思ひましたので、翌日の旅團長の巡視をこゝへ持つて來て、終結といたしました。この三勇士は、歌舞伎座でも明治座でも、また文樂の人形劇でも上演された様でございますが、それ等には支那人の間諜を出して來て非常に吾の敵愾心を刺戟し、以つて劇的效果を揚げて居る様に聞きましたが、幼兒本位の脚本にはそれは却つて有害であると存じまして、支那と云ふ言葉さへも使はず、たゞ

敵と云ふ概念的な言葉で、その場を通じる様に致したに過ぎませんでした。

こんな風に、私は主題となるものゝ山を見つけて、その光景を目に浮べ、(私の實際は山を見つげる前に、話全體の光景が目にはらつくのでございますが)そこから序幕となるものや終結となるものをたぐり出すのが、脚本化のため一つの方法と申してもよろしいのでございますが、よく考へて見ますと、その原話の光景を目に浮べ得るまでには、かなりその原話をよく読んで、もう自分のものとしてしまつて居なくてはならないと思ひます。今まで、「昔々或所に」で済んで居りましたものが、劇ではそんな漠然とした事では成立ちません。何時、何處でと、具體的に制限されてまゐりまして思はない困惑に會ふ事がございます。又時と場面の同じ所に起つた事件でございまして、それが又必要な事件でありましたならば、原話の順序と違ひましたも又形と違ひましたも、そこへ持つて來た方が原話の精神が生きて來る場合もございます。又原話には現れてゐない人物を配して對話させて(天狗退治の脚本に於て村人が代り

合つて出て來る例)原話の意義をハッキリさせる場合もございませう。こんな風に、色々和原話に戻りやしないかと心配される事共が起つてまいる場合が、ちよいとございませうが、原話の精神に達してからの細工でございませうなら、原話の精神を生かすに、破る事はあるまいと思ひます。只脚本化したします時に、細かい注意と致しまして、殊に子供本位のもの、獨言の長いのを避けたり、慘めな場面は舞臺裏で取扱ふ様に致したいと思ひます。こんな事がまあ、脚本化の要旨とでも申上げませうか？

舞臺裝置に就て

次に舞臺裝置に就て申上げませう。

出しものに依りましては背景の要らないものもございませうが、大抵の場合、先づ背景が入用でございませう。背景は三勇士の様な實話物でございませうなら、實寫めいた背景がよいと思ひます。併しそれも極く大體の感じが出る程度のものでよろしいと思ひます。それから浦島の様な空想的なものでございませうなら、ごく大體な印象的なものでよ

ろしいと思ひます。私共は今まで少し質寫めいた背景を用ひて居りましたので、時に御注意を受けた事もございました。それから、用紙は、今までは横造紙等を用ひて居りましたが、短い幕間に急いで取りかへますので、そのやかましい紙の音は、實際耳障りでもございましたし、又紙は直ぐ破けて長い間の使用に耐へませんでしたので、先頃から、かんれいしやを用ひて見ました。そう致しましたら貼り換への際、音もいたしませんし、破れもいたしませんし、今の所は大變に好都合に思つて居ります。關西の方では板紙に描き、重ねる式にされてゐる所がある由をきゝましたが大變結構に存じます。それから、今までに、よくこんな事がございました。人形をすうつと歩かせる所を表し度い、それには背景を人形の進む方と反對の方に進む様にすればよい、背景を棒に巻いて置いてそれをほぐす様にすればきつと之が表はせる、と思つて居りましたので、この舞臺には背景を横巻に出来る様にいたしました。又時には上下巻も必要な事もあらうと思ひまして、それも出来るやうに致してございます。

それから、家とか、家具、垣根とか、木、月、星とか云ふ様の所謂小道具でございますが、之は幼児相手では無くとも濟みませうが、あると尚ほ、舞臺が生きて來る事がございます。今までの舞臺も、家や、木、垣根等に乗せたり立てたり出来る様に、かけ渡しの板がございましたのですが、今度拵へましたこの舞臺には、適當な時に月が出たり星が出たり、太陽、雲、とぶ鳥も出られる様に、舞臺の上の方に、渡し棒を渡しまして、之に金具と紐をつけ、それを引つばつたり、押したりして、出沒を自由に出来る様にいたしました。

次に照明の事でございますが、照明なしで今までやつて居りましたが、照明がつけば、大變に、印象的になると思ひまして、今度つけて見ました。初めはこの舞臺に獨立につける豫定だったのでございますが、只今それが中止されて居りますので、此の度は、電燈からコードでもつて、舞臺の中に一つ二つの電燈をつけられる様に致したに過ぎません。電球の色で加減が出来ますので、これでもつけません。随分舞臺の中を生かす事が出来ると思ひます。

人形に就て

先き程、人形芝居は、お話よりも活動性の多いものをもと申上げましたが、この活動性を現はし得る爲に、人形は出来るだけ動けるものがよいと思ひます。この點、操り人形等は良いと思ひますが、人形の作り方、操り方等が六ヶ數うございますので、まだそちらの方へは手をつけずに、只今の所、私共は専ら、ギニョール式の指で扱へる袋人形を用ひて居ります。

人形の頭は、厚紙で拵へましたもの、卵でこしらへましたもの、木彫りにいたしましたもの、布でこしらへましたもの等、種々ございますが、七八年來使つて見まして、今では、布人形か、木彫り人形が一番いゝと思ふ様になりました。卵人形や箱人形は、簡単に出来て、よろしうございますが、直ぐ破れ易うございますので、一二年してその人形芝居をしやうと思つて取り出して見ますと、いつの間にか、破されてあつたり、又ねずみにいたずらされてあつたりして、もう使へない様になつて居ります事が度々でござ

います。こうなりましてもまた手輕に作り換へればよろしいわけでございますが、一度念を入れて作りましたものが破れたり致しますと、落膽ばかりいたしまして、又樂に作りかへると云ふ氣には一寸なり憎いものですから、それよりは始めから、丈夫で破れ憎いものにした方がいゝと思ひます。それから、鋸屑や、新聞紙の細かくしたものを、ふりて煮て型をこしらへて作ります人形は、皆様よくお使いになつていらつしやいますが、之も輕いし、破れないし、よろしいと思ひます。

布でこしらへます人形は、人形にさよ動物にせよ、型が出来て居りませんので、自分で色々工夫して試みて縫ひ合せて作らねばなりません。

木彫りの人形は、フレール館がこの頃賣り出して居ります。今日致します三勇士の人形は、下駄屋から桐の木を分けて貰つて、私共同人で作りました。人の顔でございいますから、割にやさしく出来ました。ごく大體の顔の形に削りまして、それに鼻をつけたのでございます。

それから人形の着物は、こう云つた様のもの(例示)で

ございまして、両手がついて、普通足がついて居りません。手があれば人形の動きと云ふものが、かなり充分に表はせますので、普通の人形は足をつけずに、子供の想像に頼んで居ります。でも今度の軍人、殊に三勇士には、動きの他に、力をも現はし度いと思ひましたので、之だけは特に足をもつけました。

服装は、布地の色等を少し考へた位で、型等も御覽の通りのごく漠然としたものでございます。普通の場合は、これと結構でございます。子供の方で然るべく想像して呉れると思ひます。でも三勇士の様なのは、空想的なお話ではございませんで、實話であり、且つその服装等も一定のきまりがあり、子供等もかなり細かい所まで氣がついて承知して居りますので、今までの様な漠然たるものでは満足して呉れないだらうと思ひました。で、之だけは例外に、細かく氣をつけて拵へました。足もつきましたので、大變にしつかりと軍人らしく見える様になりました。

それから遣ひ方でございますが、私は人指指を人形の頸に入れ、拇指を人形の片手、仲指をも一つの片手に入れて

使ひます。又時に依りましては、薬指や、小指を仲指の代りに使ふ事がございます。之は皆様、ご銘々、得手な指でお使ひになつて結構と存じます。それから人形の振りの遣ひ方をよく御心配になる方がございますが、それは、人形も一人の役者と考へ、實際の喜怒哀樂の表情を出せる積りで使ひますと、どうかそれらしい表情は出ると思ひます。

一二度ご自分でいちづつご覧になるとすぐお出来になると思ひます。之もごく大まかな表情の方が却つてよいと思ひます。それから細かい事で、申上げるまでもない事でございますが、舞臺の中には入つて、演出致します時、脚本に或程度まで通じて居りませんと、脚本の方に氣がとられて手の方が疎かになり勝ちでございます。あまり無表情でも、見て居りまして、どの人形がしやべつて居るのか分りませんから、或程度の人形の振りも必要であると思ひます。

それから細かい事でございますが使ひます時、人形はなるべく舞臺の真中で、そして表に出た方もよいと思ひます。

つまりません事を長々と申上げました。では二十分程お休み致しまして、三勇士と、浦島の實演を御覽頂きます。